ポスター発表

2025年11月1日(土) 13:00 ~ 13:50 | 会場(金森産業ホール)
[P1] ポスター発表 #1

[P1-11] 「空間」と「場所」の重なりの地図表現

*関口 晋也[1]、河端 瑞貴[1] (1. 慶應義塾大学)

キーワード：日常記憶地図、場所、生活圏、人流データ

空間情報科学が発展する一方で、レルフのように意味や経験を伴った「場所」に着目する現象学的地理学の立場も存在する。現実のまちづくりにおいては、こうした「空間」と「場所」の両視点が不可欠であると考えられる。本研究では、空間的に定義された特定の地点に焦点を当て、そこに意味や記憶を重ねて分析を行うことで、両視点の融合を試みる。具体的には、まずサトウアヤコが提唱する「日常記憶地図」というインタビューおよび表現方法を採用し、東京・神田の銭湯「稲荷湯」にて、利用者自身による記入を通じて、場所にまつわる記憶や生活圏を可視化した地図を作成する。次に、それらの記憶地図を地理情報システム上で重ね合わせ、普段意識されることが少ない「弱い記憶」の広がりやつながりを視覚的に表現する。さらに、実人流データを用いて周辺の滞留人口を可視化し、記憶地図との比較を行うことにより、「空間」と「場所」の重なりや相違を明らかにする。

©一般社団法人地理情報システム学会